

課題名	16 二条大麦の新品種育成	分類	①
	醸造用二条大麦新品種候補系統「九州二条9号」の育成		
試験研究年次	55~1年(完了)		
I 目的 暖地に適する早生、良質、耐病性の醸造用二条大麦品種を育成する。			
II 試験方法			
1 来歴			
(1) 交配組合せ: (はるな二条/倉系2660) F1//関東二条19号			
(2) 交配年 : 56年春			
(3) 交配場所 : 福岡農試			
(4) 育種目標 : はるな二条の良質, 倉系2660の強稈, 関東二条19号の 精麥縮病抵抗性を組合せた。			
(5) 旧系統名 : 吉系14 , 筑系8987			
2 試験経過			
56年度(播種年度) F1養成			
57年度 世代促進			
F2は8月末温室に播種10月末収穫			
F3は11月上旬に萎縮病発生現地圃場に播種し選抜			
59-61年度 生産力検定予備試験, 特性検定試験			
62-平成元年度 生産力検定試験, 奨励品種決定調査			
3 栽培方法と選抜法			
系統栽培は点播。生産力検定試験は標準栽培により, 選抜固定を図ってきた。			
III 主要成果の概要			
本系統は平成2年9月に福岡県の準奨励品種に採用される予定で、特性は以下のとおりである。			
1 麦芽の品質が良く、あまぎ二条に優り、ニシノゴールドに近い。			
2 大麦精麥縮病に高度の抵抗性をもつ。赤かび病に強い。			
3 あまぎ二条並の収量で、整粒歩合が高く、子実の外観が良い。			
4 出穂・成熟期はあまぎ二条より3日早い。			
5 一方、うどんこ病には弱い。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 生育調査結果

品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏	赤か	うどん	綿萎
	月日	月日	cm	cm	本/m ²	程度	び病	こ病	縮病
九州二条9号	4.8	5.22	94	7.1	546	微	微	中	無
あまぎ二条	4.11	5.25	96	6.6	538	微	微	少	微
ニシノゴールド	4.10	5.22	93	5.9	567	微	微	中	無

注) 昭和62～平成元年度生産力検定試験の平均

第2表 収穫物調査結果

品種名	子実重	同標	リットル	千粒	整粒	子実	検査	裂皮	凸腹	脱穀後の
	kg/10a	%	g	g	%	外観	等級	%	%	穂軸の付着
九州二条9号	440	100	685	40.5	68	中上	2等-等外上	0	0	少
あまぎ二条	438	100	667	38.9	57	中中	2等-等外上	0	1	少
ニシノゴールド	387	88	663	37.5	60	中中	等外上	3.8	0	やや多

注) 昭和62～平成元年度生産力検定試験の平均

第3表 麦芽品質

品種名	水分		麦芽		可溶性		コルシウム		最終	総合	同標	根
	%	%	%	%	mg/100g	mg/100g	mg/100g	mg/100g				
九州二条9号	84.0	77.7	10.1	0.78	48.2	254	158	83.3	64.4	10.6	○	
あまぎ二条	81.9	75.2	10.0	0.78	48.5	229	142	81.8	53.8	-		
ニシノゴールド	84.2	76.2	10.9	0.84	48.2	265	152	83.7	65.9	12.1	○	

注) 昭和60～63年度材料を栃木県農試で分析した結果の平均

V 成果の評価と取扱上の留意点

- あまぎ二条の凸腹粒等による検査等級低下、ニシノゴールドの収量性がやや不十分なことや側面裂皮等の被害粒の発生、両品種での整粒歩合の低下等、既存品種の欠点がある程度補うことができるので、本品種を導入することによりビール大麦の安定生産を図れる。
- 栽培上の留意点は、
 - うどんこ病にやや弱いので、発病を認めた場合には速やかに防除する。
 - 穀皮が薄いので、剥皮を生じないように脱穀調整に留意する。
 - 早播きや晩播きを避け、適期播種に努める。
 - 耐湿性が高くないので、作畦や暗渠の施工などにより排水に努める。

VI 今後の研究上の問題点

平成2年から試作中の品種として一般栽培し、ビール工場での現場醸造試験が行われる。

VI 資料名 昭和54～平成元年度 福岡県農業総合試験場農産研究所 二条大麦育種試験成績書